

食の安全・安心を考えよう

～消費者、生産者、流通業者等の役割とは？

2006年11月11日

松永 和紀

まつなが

わき

三重県食の安全・安心フォーラム

於；四日市市霞ヶ浦体育館

今日の話のあらまし

- 食情報の誤解
- 私たちは、どうやって報道を見分け、科学的に正しい情報を手に入れたらよいのか？
- 私たちが本当に心配すべきことはなにか？
- 私たちにできることはなにか？

食の問題は多様化

考えなくてはならないことがいっぱい！

旧型不安

食中毒
残留農薬
食品添加物.....

新型不安

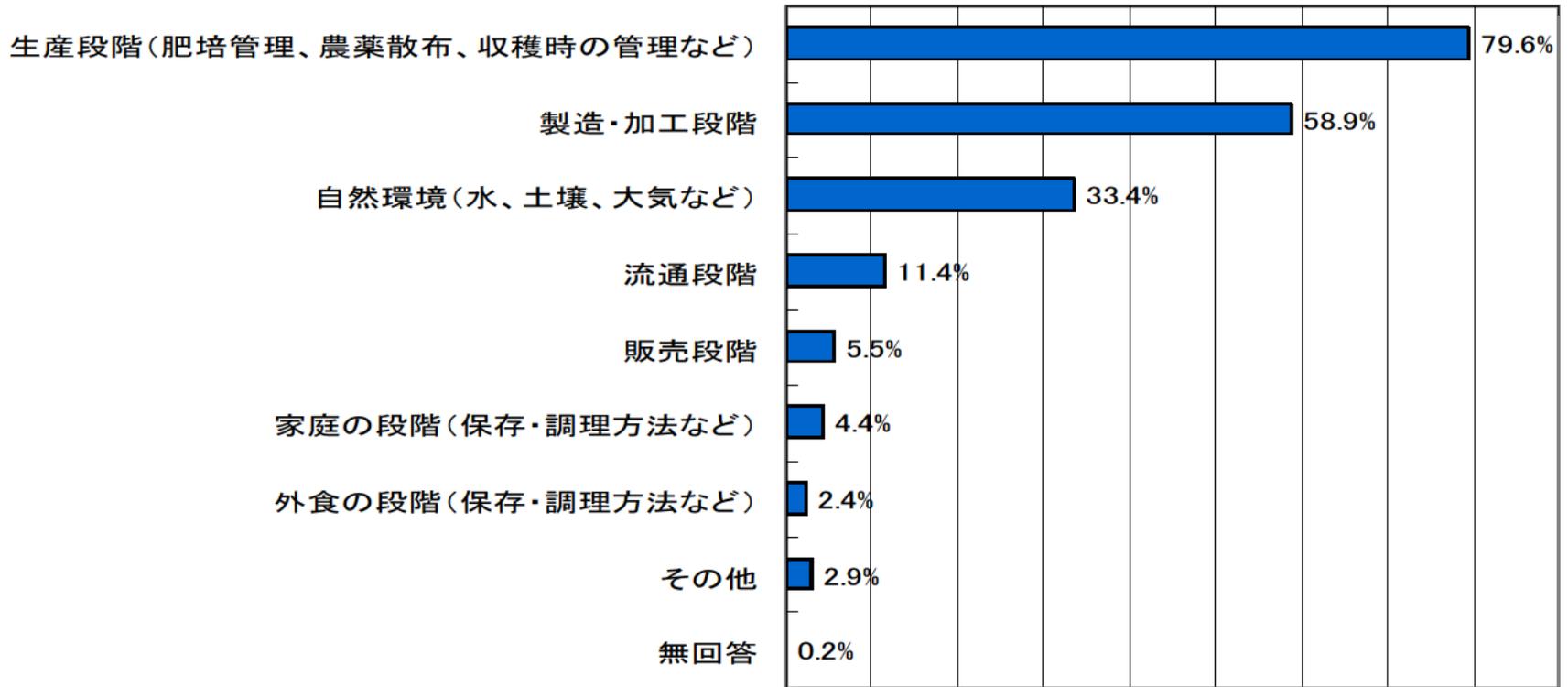
BSE／遺伝子組み換え／アレル
ギー／カドミウム／水銀／アクリ
ルアミド／トランス脂肪酸／健康
食品／カビ毒／硝酸性窒素.....

- 項目が非常に多い
- 情報の流れが速すぎる
- 氾濫する情報を咀嚼できず、鵜呑みに
- メディアの問題報道
→漠然とした不安

私たちは、正しい現状認識をしているか

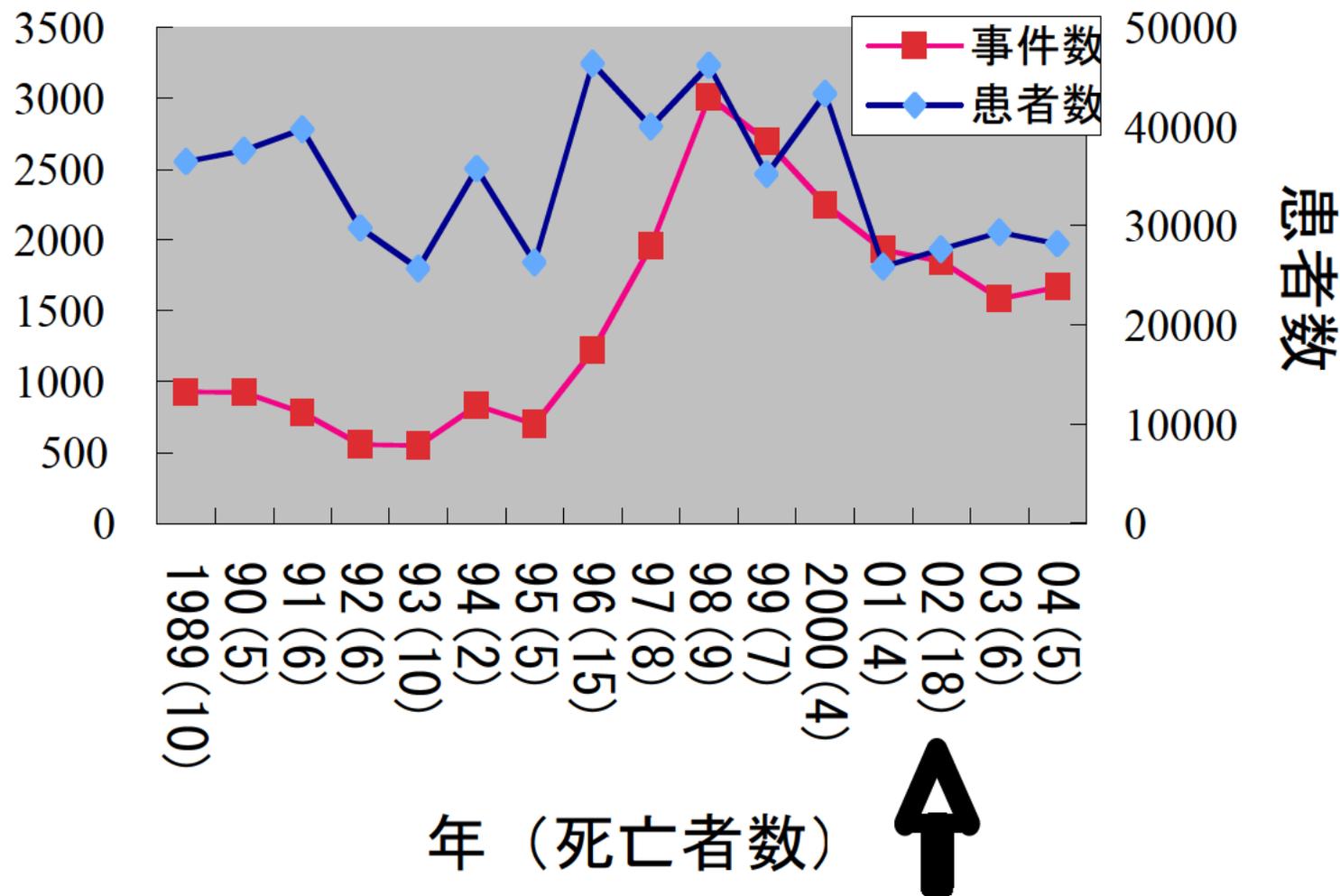
食品の安全性を確保するために改善が必要と考える段階

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%



食品安全委員会
食品安全モニター・アンケート調査、
2003年9月

年次別食中毒発生状況



誤解がいっぱい・農薬編

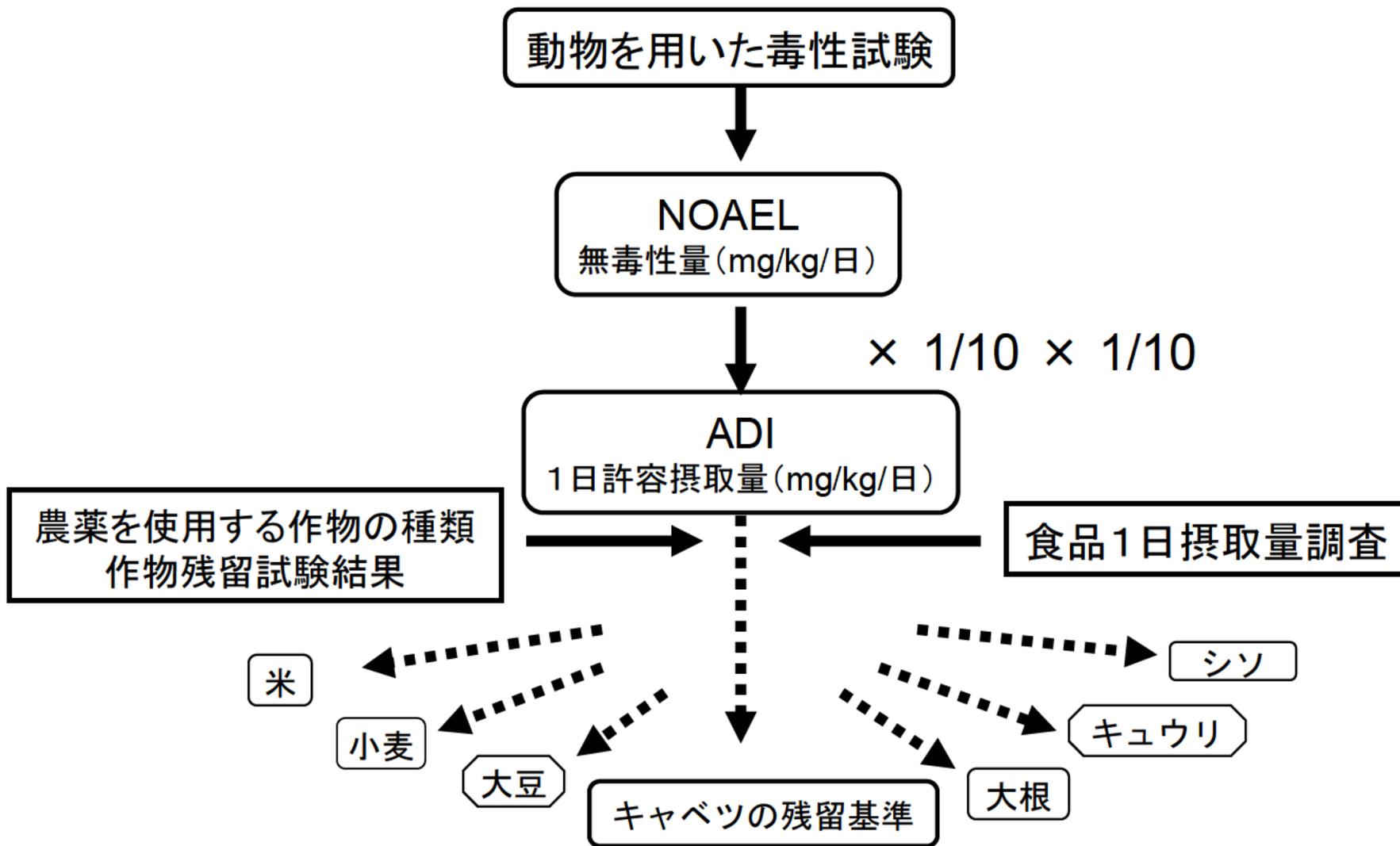
イメージ	現実
農薬は危険	安全性評価の仕組みは非常に厳しい
すべての生き物を殺してしまう	選択毒性
白い粉がもうもうと.....	粒剤、育苗箱施用、ジャンボ剤...
農家は農薬を使ったがる	きつい、窮屈、嫌われるの3K。 高価だし、使いたくない
環境破壊	生き物への影響、分解性などもかなり厳しく調べられている
農薬によいところなんてない	省力化、安定生産に大きく貢献

もちろん、農薬には問題点もまだまだあるが...

農薬登録申請時に必要な毒性に関する試験成績

急性毒性を調べる試験	急性経口毒性試験、急性経皮毒性試験、急性吸入毒性試験、皮膚刺激性試験、眼刺激性試験、皮膚感作性試験、急性神経毒性試験、急性遅発性神経毒性試験
中長期的影響を調べる試験	90日間反復経口投与毒性試験、21日間反復経皮投与毒性試験、90日間反復吸入毒性試験、反復経口投与神経毒性試験、28日間反復投与遅発性神経毒性試験、1年間反復経口投与毒性試験、発がん性試験、繁殖毒性試験、催奇形性試験、変異原性に関する試験
急性中毒症の処置を考える上で有益な情報を得る試験	生体機能への影響に関する試験
動植物体内での農薬の分解経路と分解物の構造等の情報を把握する試験	動物体内運命に関する試験、植物体内運命に関する試験
環境中での影響をみる試験	土壌中運命に関する試験、水中運命に関する試験、水産動植物への影響に関する試験、水産動植物以外の有用生物への影響に関する試験、有効成分の性状・安定性・分解性等に関する試験、水質汚濁性に関する試験、環境中予測濃度に関する試験

農薬残留基準の決め方



2002年度残留農薬検査結果（2006年4月、厚労省まとめ）

	国産・輸入	検査数	検出数		基準を超える件数	
			件	%	件	%
食品衛生法に基づく残留基準が設定されているもの	国産品	118,537	703	0.59	27	0.02
	輸入品	263,344	1,231	0.47	83	0.03
	合計	381,881	1,934	0.51	110	0.03
食品衛生法に基づく残留基準が設定されていないもの	国産品	79,469	165	0.21	/	
	輸入品	449,639	1,183	0.26		
	合計	529,108	1,348	0.25		
総合計	国産品	198,006	868	0.44		
	輸入品	712,983	2,414	0.34		
	合計	910,989	3,282	0.36		

注：1検体につき50農薬の残留量を調べた場合には、検査数50件、100農薬を調べた場合には検査数100件と数える

私たち消費者は誤解に基づき恐怖している

- 農家は、自分たち用の野菜を無農薬で別に作っている、という噂
 - ➔ 私は、こんな農家に出会ったことがない。農家にとっては、残留農薬よりも散布時の農薬暴露の方がはるかにリスクが高い。
- 残留農薬は体に蓄積し、静かに私たちの体を蝕む
 - ➔ 米国CDC（病気治療・予防センター）の調査では、農薬は人体に蓄積していない。溜まっているのは、鉛とニコチンの代謝物

マスメディアが誤解拡大に加担

- 現在の農薬を知らず、30年前のイメージのまま
- 取材源に大きな偏り
- 農家、農協、専門家にも問題はなかったか？

—農薬の良い面、悪い面、両方とも語ってこなかった

正しい情報が市民に提供されていない

農家と消費者の間には暗くて深い川がある～



群馬県提供

虫食いのないきれいな
野菜じゃなきゃイヤ！
でも、農薬はイヤ！

ある程度は農薬も使わなきゃ、
きれいな野菜なんてできない
よ。
私たちは消費者のために、農
薬を吸い込んだり皮膚につく
のを我慢して使っているのに

...

誤解がいっぱい・BSE編

某有名ニュースキャスターは言いました。
「米国産牛肉を食べずに国産の牛肉を食べましょう」
でも、それで解決するの？

国内畜産の現実は.....

- 粗飼料自給率76%
- 濃厚飼料自給率10%

最大の飼料生産国は米国

結局、米国依存は同じ

さらに一歩進んで考えてみる

- 飼料を国産化しなければ
- でも、日本は濃厚飼料栽培には不向き
- 霜降り肉よ、さようなら
- だれが、牛を飼いますか？
- だれが、牧草、飼料イネを栽培しますか？
- コスト削減にどれほど努力しても、やっぱり国産牛肉は高い。あなたは、買いますか？

食品報道の問題点

- 記者の専門知識が足りない
- センセーショナルが最優先
- 「行政、企業は悪、市民団体は善」という図式化
- コスト意識の不足

100ある事実の中から、面白いもの一つだけを
ピックアップして伝えるのが「報道」というもの。

もう、マスメディアには任せておけない

「受け身」を脱し、学び、情報を発信

<食の読み書きそろばん力>をつけよう！

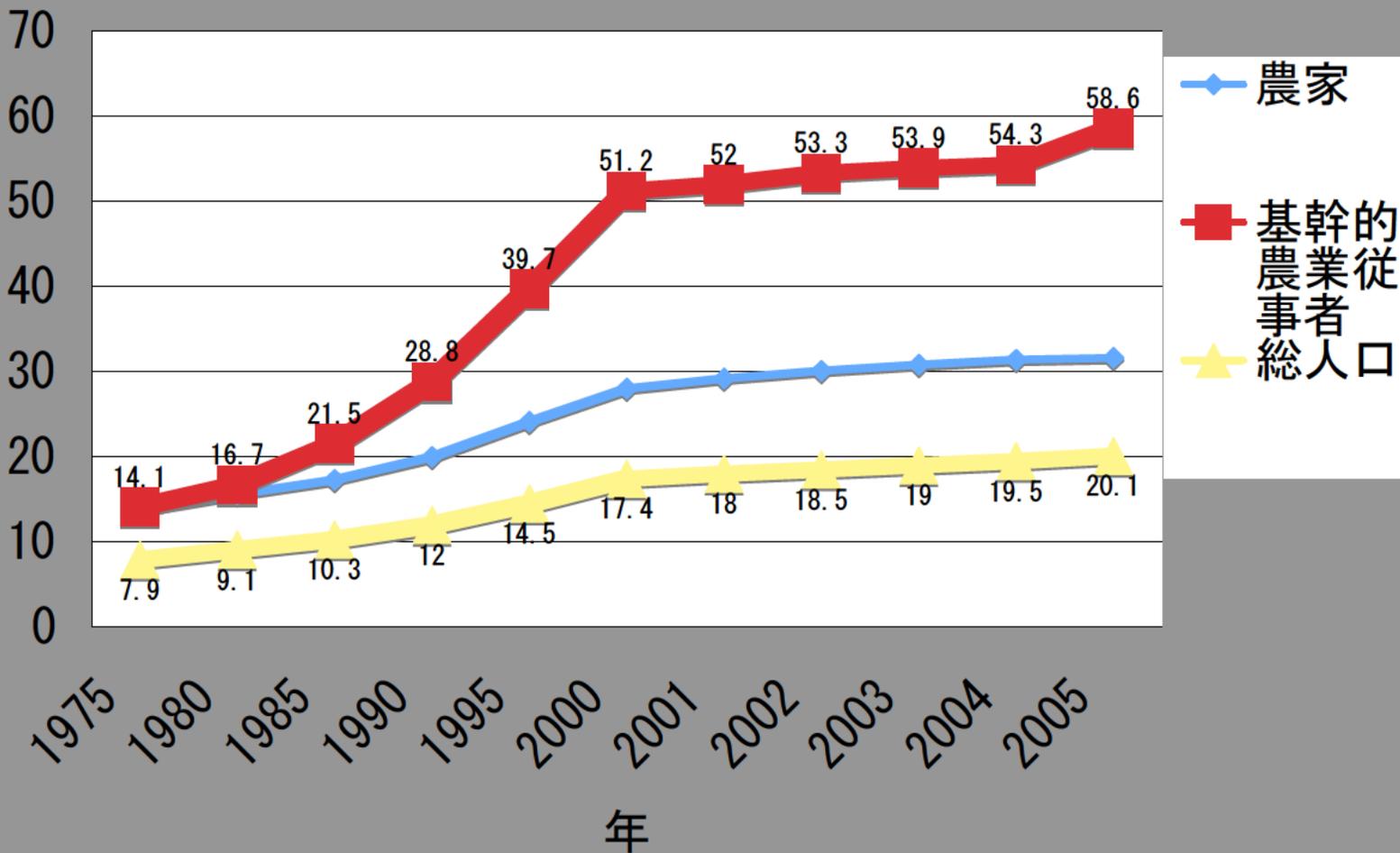
確かな情報を集めるには...

- 取っ掛かりは新聞、テレビでいい
- 情報発信源にさかのぼれ（行政、研究者、企業、市民団体）
- 行政情報は信頼性が高い
- インターネットもフル活用
- 海外情報も積極的に収集を
- あれっと思う素朴な気持ちを大切にしたい
- 柔らかな頭と心で知識の更新を

本当に心配しなければならないこと

- これほどぜいたくで安全な食生活を送っている国は他にないだろう
- 最大のリスクは食糧自給率の低さ
- 農家の高齢化が、すべてに暗い影を落としている
- 養分循環＝このまま、食品、飼料の輸入を続けていたら、日本は家畜糞尿のたまり場になってしまう
- 環境保全対策との連携

人口における高齢者(65歳以上)の割合の推移



- 消費者、生産者、流通業者等が互いに思いやり理解する努力を
- 私にとって、家族にとって、社会にとって、大切なことや解決すべき問題は何か？自分で考えよう
- 比較の「目」を持ち優先順位をつけよう！
- 解決のために、適切な方法を一生懸命に探し、自分も努力しよう！
- 何事にもよい面、悪い面があることを知り、バランスのよい判断をしよう！
- お財布としっかり相談しよう！



『「食品報道」のウソを見破る～食卓の安全学』(家の光協会)
『踊る「食の安全」～農薬から見える日本の食卓』(家の光協会)
日経BP社FoodScienceで「松永和紀のアグリ話」を連載中
<http://biotech.nikkeibp.co.jp/fs/>

ご意見は、postmaster@wakilab.org へ